



朝晩グッと冷え込むようになり、ようやく秋らしい気候になってきましたね
 秋といえば、食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋……
 皆さんはどんな秋を楽しんでいますか？

咬合内科

百田 昌史

歯科医になって25年目になります。この間に大学では教わらなかったことに気づくことがあります。日々の臨床での経験や研究を通しての気づきです。

その中の一つに口（口腔 こうくう）と全身の健康との「おおいなる関わり」があります。それをうちでは『咬合内科』と呼んでいます。日常の診療でその研究を生かして行くためにうちでは歯科の間診表と別に『咬合内科』の間診表として70項目ぐらいの全身症状の有無や程度をお聞きしています。

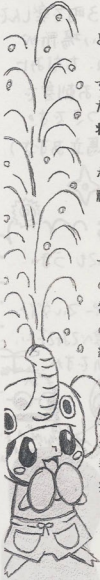
よくあるのが歯を失ったり、磨耗したり、削ったりした結果、かみ合わせの高さが低くなった状態です。咬合低位とか咬合崩壊ともいいます。これは肩こり、首の凝り、偏頭痛、腰痛、耳鳴り、難聴、睡眠障害、集中力低下などさまざまな症状が起こる場合があります。どうしてそういうことが起こるか簡単な説明を考えました。

冬の寒い時、例えば摂氏4度の空気を吸うと、その空気が肺の中で何度になると思いますか？・・・答えは37度ぐらいです。なんと吸い込まれた冷たい空気は比較的直後の肺の中では体内体温とほぼ同じになってしまうのです。どこで温度が上がったかという正常な高さのかみ合わせでかむこと（咀嚼）によってアゴの骨とか肉とかがキシミます。そのキシミはエネルギーを発生しアゴ骨・肉に伝わり空気が暖められ、ももとの体温と一緒にになり口腔で、すでにある程度の温度に上がっているのです。そのまま口から喉、喉から気管、肺へと送られます。

肺の裏には免疫機能をつかさどる胸腺という器官があります。病気から守るリンパ球を欠陥を介して全身に送る器官です。よって低いかみ合わせだとこのキシミのエネルギーが少なく、空気が暖められません。胸腺は前にある肺の温度が低く、当然 周辺環境の変で器官が正常に働きません。胸腺が正常じゃないってことはリンパ球も異常が起こります。病気にもなりますよね。

その他にもいろいろと口と全身の健康の『おおいなる関係』を説明できることは多々あります。「顎関節と脊椎のこと」とか「口腔周囲筋と呼吸」とか。

しかしまだ体系化されておらず、今からの課題であります。歯科界は大学研究機関と臨床家の研鑽や連携が望まれています。歯科の『全身とのかかわり研究』はまだ始まったばかりなのです。



My FAVORITE 私の気に入った映画

最近見た映画
 『博士の愛した数式』
 手塚聡さん出演の映画、
 エンディングまで出てきた詩が気に入りましたのでご紹介します。

一つぶの砂に
 一つの世界を見
 一輪の野の花に
 一つの大団を見

てのひらに
 無限を来せ
 ひと時のうちに
 永遠を感じる
 (ワイリアム・フレイク)

ワイリアム・フレイクは
 イギリスの詩人、画家
 です。山や丘のこと些細
 なことにも目を向け
 それに愛を感じ幸せ
 に思いうこと、そう思える
 ことが大切ですから
 しいと言ったことでしょう
 か？